

令和7年度「知事と市町長の円卓対話」(紀北町) 概要

- 1 対話市町 紀北町 (紀北町長 ^{おのうえ}尾上 ^{としかず}壽一)
- 2 対話日時 令和8年1月28日(水) 10時30分から11時00分
- 3 対話場所 紀北町若者センター 多目的ホール
(北牟婁郡紀北町島原 2697 番地 5)
- 4 視察場所 トマトの温室栽培場
(株式会社デアルケ、北牟婁郡紀北町島原 5072)
- 5 対話項目
(1) 観光誘客について

6 対話概要

対話項目 (1) 観光誘客について

(町長)

観光誘客の話をする前に、まずはお礼を3点ほど言わせてください。現在、国道422号の下地トンネルを着工していただいております。これは、紀伊長島地区と赤羽地区とを結ぶ、悲願のトンネルでございます。防災の観点からも素敵な工事に着手いただいたと思います。

次に、農業用排水機場について、6つの排水機場がございますが、今、県単事業で修繕していただいております。30年から50年経った排水機場であったため、これまで小修繕で何とか保ってきたのですが、現在、そのうち二つが完成しまして、あとのものも継続してやっていただいております。これも、みなさんのご尽力のおかげだと思います。やはり防災は第一に考えなければいけない部分です。引き続き、最後まで取り組んでいただくようお願いしたいと思います。

それから、次の観光誘客の話にも続きますが、令和5年度、城ノ浜にインフィニティプールを造っていただきました。あのプールを造っていただいたおかげで、城ノ浜の価値が上がり、また、ホテルの価値も上がって、多くの皆さんがお越しいただいております。

他にも県にやっていただいていることはたくさんございますが、まずは大きな3点をお礼させていただきたいと思います。

ここから本題に入って、観光誘客ということでお話をさせていただきます。城ノ浜プールの完成式典において、知事からの挨拶で、県南部に客を呼び込むのが私たちの使命とおっしゃっていただきました。本当に力強い発言をしていただいて、いまだに忘れることはございません。それから、国から観光部長を招かれたことから、観光に対する知事の思いがひしひしと伝わってまいりましたので、議題として挙げさせていただいた次第です。

まずは、知事もご存じだと思いますが、紀北町の現状について少し話をさせていただきます。紀北町には三つの拠点、始神テラス、道の駅紀伊長島マンボウ、道の駅海

山がございます。この施設だけで100万人以上の皆さんにお立ち寄りいただいております。また、宿泊施設としては、孫太郎オートキャンプ場、キャンプ inn 海山、うぐいすの森などのキャンプ場のほか、古里地区の民宿、ホテル季の座など、たくさんの魅力ある宿泊施設がございまして、いろいろな世代・目的の方を受け入れる施設があるということでございます。

それから観光資源といたしましては、五つの峠がある世界遺産・熊野古道、奇跡の清流・銚子川。象の背と天狗倉山は熊野古道・馬越峠から登っていくということで、大変人気になっているところでございます。それからインフィニティプールや五つある海水浴場。そういうことで、多くの方が訪れていただいております。それから、紀伊の松島、魚まちツアーなどのソフト面、海上釣り堀、そういったものもたくさんございますので、観光資源としては、多い方ではないかと思っております。それから食としては、鮮魚、伊勢えび、青さのり、幻の渡利かき、それから先ほど視察いただいたトマト等、大変魅力的なものがあります。

紀北町には、すっぴん、ありのまま、そのまま通じるような素材がたくさんございます。我々としてはこれらを連携して、高付加価値化し、直接的に地域経済へと結び付けたいと思っております。国内外の旅行者に選ばれる持続可能な観光地へと進化させたいと思っております。

そのためには、美し国三重をさらに積極的に発信していただきたい。知名度を上げていただいて、県にまず多くの方を惹きつけていただいて、それぞれの地域が観光資源で結び付いて、我々自身の町が発信していく。これが重要だと思いますので、そこのつながりもよろしくお願ひしたいと思います。これから、伊勢神宮の遷宮の機運が上がってくると思います。伊勢神宮から熊野古道の方へ導いていただくことを県の役割としてやっていただければありがたい。もちろん今もやっていただいているのは十分わかりますので、より一層ということで、よろしくお願ひします。

(知事)

ありがとうございました。知事ってどんな人やろうと思うかもしれないですけど、私も皆さんと同じ三重県に生まれて、ふるさとの三重を何とかして発展させていきたいと思っております。

私は国土交通省におりましたので、その人脈とパイプを生かして、三重県に貢献したいと思っております。全国47の知事のうち25人ぐらいは中央省庁出身の人間で、中央省庁出身の人間は、自分の今まで働いていた母体と顔はつながっています。知事になってから、公共事業のお金、道路を造り、河川を整備するお金、あとは港湾など、そういうお金を今まで以上に国から持ってきているつもりです。それは、そういう出身の知事なので、そういうことをやらないといけない。

実は三重県は、過去に農林水産省出身の知事がおりまして、その時に、かなり農道の整備や耕地整理、ほ場整備と言いますが、これが進んでいます。それから水利ダムなんかも進んでいるんですが、そういう人がいなくなるとお金はなかなか来

ないというのが今の日本の構造になっています。できれば、今までの経験を生かして、三重県にプラスになるようにしたいと思っています。

現に今まで道路整備も進んでいますので、先ほどおっしゃった 422 号の下地トンネルでも、今までの予算ではできなかった部分だと思えますけど、ようやく着工することができたというのは、三重県に生まれた人間としてありがたいことだと思っています。

それと、観光も実は国土交通省の所管です。皆さん出国税とか旅客税とか聞かれたことあると思えますけど、日本から出国するとき、空港で一人 1,000 円お支払いしてもらい、それを観光振興に充てようという国が作っている制度です。国がそのお金を収集し、それを全国各地で使ってもらうわけで、観光庁が予算を持っていて、そこに県とか町が予算を使わせてくれと話に行くわけです。今度、その 1,000 円が 3,000 円に上がります。そうすると観光のために使えるお金が増えてくるので、これを何とか獲得に行かなければならない。観光庁長官は私の後輩ですし、県の観光部長も国土交通省から来てくれているわけですから、そういう人脈も使いながら紀北町で使えるお金を増やしていきたい。

三重県の課題は、あまり知られてないんです、いいところなんですけど。今まで宣伝をあまりできていませんでした。観光予算も少なく、知事就任時点で県全体の観光予算が 12 億円くらいで、全国でも真ん中以下くらいでした。今それを 37 億円と 3 倍に増やしまして、かなり使えるお金が増えました。

あとから話しますが、紀北町の宿泊施設なんかも改修していただくために、そのお金を使っていたりしていますし、それから国の予算もこれから増えていきますので、どういう形のメニューができてくるかはこれから未定ですけども、もっと観光に力を入れていくことができと思っています。

まず我々がやらなきゃいけないのは、三重県全体を売っていかないといけない。名古屋とか大阪の人は、三重県のことをわかってくれているんですけど、東京へ行くと、「三重県ってどこにありましたっけ」、「伊勢神宮は知っているし、鈴鹿サーキットは聞いたことあるし、忍者の里は伊賀となんか聞いたことあるけど」と、それが三重県にあると知らない。だから、知事になってからプロモーションビデオも作りましたし、東京駅での宣伝もやり始めましたし、SNS を使った発信も非常に大事なので、やっているところです。

多くの人にまず三重県に来てもらう。二つ大きなチャンスがあって、一つは遷宮で多くの人に来ていただくので、そこで来てもらった人を伊勢神宮だけにとどめない、熊野古道にも力を入れていかないといけない。それから 2037 年、ちょっと遅れるかもしれませんが、リニアが三重県にやってくる。実は、東京は大消費地なので、お金も情報も人も集まってくる。その人たちを三重県に連れてくる必要があるんですけど、東京に乗り換えなしで行けない県が二つあって、三重県と奈良県。ところがリニアが来ると、直行で東京まで 1 時間、大阪まで 20 分で行けます。そうすると、二つの大消費地からたくさんの人に来てもらえるチャンスがある。あとはリニアの駅ができる亀山から、どうやって南部まで人を呼び込むか。高速道路は紀

北町まで来ています。多くの人にどうやって来てもらうかを考えていけないといけない。それが一つの課題ですが、いずれにしても観光にはこれからも引き続き力を入れていきます。

(町長)

ありがとうございます。力強い言葉で、予算を取っていただくということであります。まず三重県を多く売り出していただいて、やっぱりそれぞれの市町が努力して、お客様に来ていただくようにやらなければいけないと思っておりますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

それで、2回目に発言させていただきたいのは、観光やインフラ整備というのは、整備し続けなければ、どうしても衰えてきます。魅力がなくなってまいります。そのところで、予算のこともあるので答えにくいと思うのですが、ハードの部分を少しお話しさせてください。

熊野灘臨海公園は、これまで約200億円かけて整備していただいております。そういう中でも先ほど申し上げた城ノ浜プールとか、(2013年に)皇太子殿下がお越しいただいた『みどりの愛護』のつどい」の時にはフィットネスホールとか、そういったものを整備していただきました。そういうこともあって、この熊野灘臨海公園はできてからと随分になりますので、結構古くなってきています。せっかく投資したお金をそのまま古く朽ちさせるのかという話なんですけど、やっぱりそこは少しお金を入れていただいて、新たなものを造るのもありがたいですが、そこら辺をしっかりと整備していただきたいと思っております。

トイレなどが不使用になっているところもございます。豊浦公園や高塚山も大変素晴らしいところです。樹齢1,500~1,600年の大きなクスノキがあり、本当に独特の雰囲気のところですが、トイレが壊れていて使えないといったこともあります。高塚山は紀伊の松島を眺められる展望台で、これも素晴らしいところなので、機会があれば、一度上がっていただくよう、お願いします。

それから、何度も知事の方にもお願いに行っている国道260号の整備、これも着実に進めていただいて、南伊勢町の町長が大変喜んでおります。それが我々にとっても、伊勢から紀北町へ来るには、高速道路を通るか、260号を通るか、今、道の駅マンボウがバイクの集まる拠点のようになっております。これも、今まで260号を整備していただいて通りやすくなったので、そういう状況になっているのではないかなと思っております。

熊野古道(の保全)では、今まで守る会の方が必死になってやっていただきました。しかし、高齢化もあって、そろそろ県とか町が積極的な関与をしていかないと、なかなか古道を守ることができないような状況になっておりますので、町も一緒になってやっていきたいと思っております。

それから、別の話になりますが、スポーツ合宿を一生懸命呼び込んでおります。古里民宿あたりに来ていただくのですが、そのオフシーズンになる春休みとか冬休みに合宿に来ていただくとありがたいので、できたら県立高校あたりの合宿にち

らへ来ていただきたいと、思いを言わせていただきます。

そういったことで、高速道路が延伸し、始神テラスが約 60 万人、道の駅マンボウが約 40 万人、道の駅海山が約 10 万人と来ていただいていますので、1 回目は通過であっても、2 回目、3 回目は紀北町に降りていただくようにしていきたいと思えます。我々としても、インフラの整備等、町でできることは一生懸命させていただきますので、県の方にもぜひともお力添えをいただきたい。以上です。

(知事)

観光に特化ではないですけれども、観光中心にお話をいただきましたので、私の方からお答えさせていただきたいと思えます。

町だけでは、なかなか予算を確保できない。県でも実はそんなに予算は確保できないです。やっぱり、お金を持っているのは国なので、国からどうやってお金を取ってくるかがとても大事であります。先ほどの国道 260 号も、南伊勢町と一緒に、国に行って道路整備を頼んでいます。かなり力を入れてやっていますので、今本当に 260 号を整備しておかないと、これからどんどん人口が減ってしまっていて、これから先は整備が難しいという思いで、しっかりやっています。紀北町さんとも一緒にやっていきたいと思えます。

県南部が発展していくためには、観光は絶対大事です。それから、もう一つ大事なのが農林水産業。これを振興させていって、移住で多くの人に来てもらう必要があります。先ほど(の視察先で)、デアルケの方もおっしゃっていましたが、人手不足なので人に来て欲しいという話があるので、来てもらうという事を考えていかなければいけない。

もう一つはエネルギー、県南部の発展という。実は外貨を稼ぐ産業というのがありまして、日本でいうと自動車ですけど、世界では自動車は 4 番目なんです。それで、1 番目は何かというと、エネルギーです。例えば石油を売ったり天然ガスを外国に売ったり、輸出でお金を一番稼いでいるのはエネルギーです。

次は、化学品です。三重県でいうと四日市コンビナートがあり、色々な物を作っていますが、これを外国に輸出して外貨を稼ぐ。3 番目は観光で、観光は輸出していませんけど、外国の人に来てもらってお金落としてもらうので、この観光というのは、非常に大事です。

先ほど申し上げたエネルギーですけど、これから原子力発電は新しいものがなかなか造れない。それから、火力発電は、CO₂ を出しますので、もうこれからやめていくしかない。そうすると自然再生エネルギーにエネルギー源を求めていくしかないですけど、もう陸上では風力発電も限界、太陽光パネルは皆さんもご存じのとおり三重県でも規制を強めようとしています。だとすると、洋上風力しか頼るところがないんです。三重県は東が海ですから、洋上風力の浮体式というんですけど、着床式というのは海底に打ち込んでやりますけど、それはなかなか難しいところがあります。浮体式というのは、まだ技術的にこれから考えていく必要がありますけど、それができると、三重県の南部もエネルギー、先ほど言った世界的には 2 番目の外

貨獲得の手段、それが出てくる可能性があります。

外貨獲得の3番目の観光も力を入れていかないといけない。人口がどんどん減っていくときに、アジアはどんどん人が増えてきていますから、そこから観光に来ています。三重県は、紀北町さんと去年、紀伊の松島さん、ホテル季の座さんとか河村こうじ屋さんとかに、三重県と国のお金を投入しまして、観光施設・宿泊施設のリニューアルをやらせていただいています。また、バリアフリーも進めていますし、インバウンド対応の施設改修も進めています。

さらには令和6年、7年、紀北町観光協会さんと一緒になって、どうしたら多くの観光客が来るのか、相談事業もしているところですので、これからもそれを進めていきたいと思っています。

令和6年、一昨年になりますけど、熊野古道が世界遺産登録20周年の節目を迎えました。熊野古道に来ていただいている方がどんどん増えてきてまして、令和2年が22万6千人だったんです。令和6年は35万人ということで、ここ数年では過去最大という形で来ていただいています。世界遺産登録15周年とほぼ同じぐらいの人が来てくれているので、この人たちにリピーターになってもらわないといけない。そのためには、熊野古道だけではなく、その周辺の整備を進めていかなければいけない。まずは宿泊施設、それからトイレと案内板です。トイレと案内板は、東京の人と話したときに、「この間、熊野古道行ってきたけど、駅でトイレ貸してもらおうかと思ったら、『貸せません。そこの看板の場所へ行ってください』(と言われた)」と話があったので、熊野古道そのものにトイレをちゃんと作っていかないといけないし、案内板も付けていかないといけない。

それから熊野古道の整備は、おっしゃる通り、今、熊野古道を綺麗にしてもらおうのは、地元の方々をお願いしていますが、皆さん高齢化していったら、このままではなかなか今までのボランティア的な方々をお願いするのも無理があるということです。県や町でやっていくしかないということになると思います。

観光の魅力としては、とってもいいものを持っているんですけど、今まで宣伝がもうひとつというのと、先ほど申し上げました施設がやっぱり整備されていない、トイレもそうですし、それからもう一つは宿泊施設。あることはあるんですけど、本当に今のものでいいのかということです。巡礼の道というのはスペインにもあるんですけど、ここは民宿みたいなものが充実しています。熊野古道はまだそこまでっていないので、それをやってかなきゃいけない。これが2番目です。

3番目は、交通です。自家用車で来て、(熊野古道の)峠を越えて、また(自家用車のところまで)戻ってこなきゃいけないので、県は去年の10月から、二次交通の実証実験をやっています。町にも参加していただいて、お客さんが峠の反対側へ行って、また峠を越えて戻ってこないといけないということがないような、二次交通を作っていかないといけません。

「熊野古道はいいところですよ」と、今まで県は言ってきましたけど、そういう三つの観光インフラが充実していません。これからしっかりやってかなきゃいけない。今が最後のチャンスだと思っています。熊野古道に携わっていただく方の数は

どんどん減っているなので、今やっておかないと、20年後、30年後に観光客が来てくれるようにはなりません。最後のチャンスなので、町ともお話をさせていただきながら、熊野古道の整備を進めていきたいと思っています。

熊野灘臨海公園もそうですが、やっぱり、人が来ないといけない。需要がないのに整備はできないので、需要をどうやって喚起していくか。最低限の整備はやって、それで人が来てくれて、お金を落としてもらって、かつ、公的なお金も入れ込んで、さらに充実させていくと、そういうことを進めていきたいと思っていますので、引き続きよろしくをお願いします。